

## もの言う牧師のエッセー 第27話

## 「東京スカイツリー開業」

高さ 634mを誇る世界一の電波塔、東京スカイツリー周辺は開業前から大にぎわいだ。毎日曜日、押上駅周辺は人ごみでごった返し、3月に行った個人向け予約受け付けの1回目の抽選では13万9381件の申し込みがあり、墨田区は推定経済波及効果が880億円ということで鼻息が荒く、おまけにレディー・ガガまで展望デッキで「愛してます！」とくればもう訳が分からないフィーバーぶりだ。

何せツリー真下にあるただの自転車置き場でさえわざわざ施工業者の大林組が担当し「世界一の駐輪場！」などと銘打って雨水活用システムまで備え付けたという念の入りようだ。ツリーに使用された鉄骨の総重量は東京タワーの約十倍の4万1千トンというからスゴイ。昨年の震災時すでに620mに達していたツリーだが、当時360m地点にいた現場作業所長の田淵成明さんによると「左右に大きく振られ立っていらなかった」もののツリー自体は全くの無傷というから実に頼もしい。

そう言えば昔東京タワーが出来た頃、若いカップルが展望台から“Oh ワンダフル！”なんて歌があったそうだが、今や日本中が頼もしいツリーにワクワクしているのを見ながら、思わず私は賛美歌 301 番の土台となった聖書の

詩篇 121 篇 1-2 節を思い出した。

「私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。」

私の助けは、天地を造られた主から来る。」

である。この歌の作者も今の日本と同じく苦しい状況にあったが、大きな山を見た時、その創造主である神を思い出し奮い立ったのだ。“復興のシンボル”と言われる山の様なツリーを見る時、神が日本人に下さった創造性に感謝すると同時に、彼らが神を信じ救われるよう心から祈る。

2012-5-20

